

(2) 昆虫バイオメディカル教育プログラム

本プログラムは、国公大学が連携することにより、昆虫が有する優れた生物学的機能の解明と、そのヒト疾患研究や再生医療への活用をめざす独創的な医工農連携教育プログラムです。

下記に掲げる科目の単位を修得し、博士前期課程を修了すれば、プログラム修了の認定をすることができます。

昆虫バイオメディカル教育プログラムの履修について

- ①履修区分欄に●印を付したものは必修科目を、☆印を付したものは選択必修科目を示します。
- ②以下の教科課程表から、**必修9単位、選択必修科目6単位以上の計15単位以上の単位の修得が必要です。**
- ③設備等の都合により、受講者数を制限することがあります。
- ④受講するに当たり、交通費等について、一部自己負担がある場合があります。
- ⑤備考欄に「応用生物学専攻開講科目」または「生体分子工学専攻開講科目」の記載がある科目については、当該専攻学生に限り、修了要件に含めることができます。ただし、当該専攻以外の専攻の者については、他専攻の授業科目となるため、修了要件に含めることができるのは、他専攻の授業科目すべてを含め6単位を限度とします。
- ⑥本学は、**京都府立大学と単位互換協定を締結しているため、同大学院生命環境科学研究科応用生命科学専攻の科目を受講し、単位を取得することができます。**その取得した単位は、本プログラムの選択必修科目の単位に含めることができます。
なお、修了要件にも含めることができますが、専攻共通科目、他専攻科目及び学部科目のすべてを含め、10単位を限度とします。

○昆虫バイオメディカル教育プログラム

授 業 科 目	担当教員	単 位 数	履 修 区 分	週授業時間数		備 考
				1～2年次		
				春	秋	
応用昆虫ウイルス学特論	森 肇	2	☆		2	
疾患モデル昆虫学特論	山口政光	2	☆	2		
染色体工学特論	山口政光・伊藤雅信	2	☆		2	応用生物学専攻開講科目
昆虫工学特論	森 肇・小谷英治	2	☆		2	応用生物学専攻開講科目
昆虫バイオメディカル学特論	井上喜博	2	●		2	
細胞分子生物学特論	竹谷 茂・片岡孝夫	2	☆	2		応用生物学専攻開講科目
生体制御分子設計	村上 章・小堀哲生	2	☆		2	生体分子工学専攻開講科目
バイオメディカル学特論Ⅰ	プログラム関係教員	2	●	2		京都府立医科大学、京都府立大学の研究紹介を含む
バイオメディカル学特論Ⅱ	プログラム関係教員	2	●		2	京都府立医科大学、京都府立大学の研究紹介を含む
昆虫バイオメディカル特別実験及び演習	関係教員	3	●		6	